

継子の麦搗き

梗概	（継親が）継子に麦をつかせた。が、ついてもついても皮ははげなかった。継子は悲しくなって泣いた。涙が麦におちて、おちた所は麦の皮がむけた。それからは、麦は水をついてつくものだなあと、水をいれてついた。
あらすじ	血の繋がりが無い親から麦を搗くように言いつけられた子どもがいた。子どもがいくら麦を搗いても、まったく皮ははがれない。どれだけ搗いても皮ははがれないので、苦しくて悲しくなった子どもは涙を流した。その涙が麦に落ち、濡れた麦を搗いてみると、皮が簡単にはがれた。それを見た子どもは、麦を水で濡らして搗けば、皮が綺麗にはがれるのだなと分かり、それからは水を入れて搗いたそうだよ。
話者情報	1916（大正5）年生まれ 女性
記録日	1983年3月24日
分類	本格昔話